



英中部のキール大学で、多品種の桜の植樹を進めているサンダースさん。小嶋麻友美撮影

桜 英国人の心にも

タイハクなど20種流通

コリングウッド・イングリッシュさんが浸透させた日本の桜は、園芸大国・英国で今も人気不衰。現在、桜の第一人者とされる園芸家クリストファー・サンダースさん(モコモ)によると、白い大輪のタイハクや濃い桃色で八重咲きのカンザンを筆頭に、約二十種がよく流通しているという。

「日本で主流のソメイヨシノとヤマザクラは、英国にはない。面白い違いです」
コリングウッド・イングリッシュさんが代表する園芸店に勤めていた一九九〇年代、北海道の桜研究者、浅利政俊さん(ハバ)が開発した新品種を導入し、裾野をさらに広げた。さまざまな品種に興味を持つ人は着実に増えているという。

若木も植えられ、現在約二百四十種。「いろいろな日本の桜を、より多くの人に見てもらいたい。キール大は二十年后、桜の名所になるはず」とほほ笑んだ。

サンダースさんの一番のお気に入り、松前桜の一種のフウキ(富貴)。「花の色はとても淡く、同時に生える赤銅色や緑色の若葉との組み合わせがとても美しいんだよ」。花が散った後に葉が生えてくるソメイヨシノでは味わえない楽しみだ。

(ロンドン・小嶋麻友美)